

始良校区

コミュニティ協議会だより

発行 平成28年12月1日
号数 第5号
事務所 始良市西餅田3311-1
(始良市働く女性の家内)
電話 73-8389 (火、木、金)

子どもの力無限

青少年育成部の活動

発足して二年目、前年度と変わらぬ事業計画でスタートしました。6月には約600mの白砂青松の霧島錦江湾国立公園での重富海岸干潟体験勉強会を計画しました。しかし大勢の参加希望がありながら悪天候のため中止せざるを得ませんでした。夏休みに入り【あじ福】様のご協力でお菓子作りを2回実施しました。今年の課題は“花火”、思い思いに練り切りで形を作り、食紅や特殊な用具を使って花火を描いた自慢の和菓子を作り、最後に裏千家大園様のご指導でお抹茶を点てていただく体験もできました。初めていただくお抹茶をお代わりする子どもがいれば、苦いと言って顔をしかめ友達に譲る子どももいました。



(講師による指導)



(上田館長による宇宙の説明)

夏休み後半の活動は北山にあるスターランドAIRAで夏の星座教室を行いました。45名の募集に41名の応募があり、上田館長の専門的かつ解り易い説明に参加者も熱心に聞き入っていました。プラネタリウム観覧の後、教室で宇宙についての説明、望遠鏡を覗いて星の観察、それまで曇っていた夜空から雲が消え、裸眼で火星、土星が観られました。帰りのバスでの飛び交う会話に「2030年頃には宇宙へ」子供たちの希望と思考力は素晴らしく無限であることを再認識しました。

(文責：青少年育成部 中村 學)

始良校区コミュニティ協議会主催 校区敬老会

始良校区コミュニティ協議会主催の敬老会を毎年開催しております。今年、9月24日(土)始良市高齢者福祉センターに於いて「第11回始良校区敬老会」を実施いたしました。

敬老会には、80歳以上の高齢者130余名の方々にご参加いただきました。

大浦地政廣協議会会長の挨拶にはじまり、始良市長代理の西井上洋子副市長及び、酒匂卓郎県議会議員、始良市社会福祉協議会の深浦卓二会長のご祝辞をいただきました。

続いて、祝宴となり、食事をしながら余興を楽しみました。12組もの余興とボランティアの方々や参加者の中からも出演されるなど、会場が一つになって盛り上がりました。



(挨拶する大浦地会長)



(ひょっとこ踊り入場)

参加された方々は、「毎年楽しみにしています。」「初めて参加したが、久々振りに知人も会えた。」「余興が楽しみで毎年来ています。ありがとう。」etc 感想を述べておられました。

最後に、参加していただいた高齢者の皆様及び、ご多忙中、ご出席いただきましたご来賓の皆様、また、ご協力いただいたボランティアの方々、更には、資金面でご支援賜りました企業・団体の方々に衷心より御礼と感謝を申し上げます。

(文責：福祉文化部 早瀬五男)



！がんばる始良っ子！

平成28年10月16日（日）始良公民館大ホールで、小・中・高生の代表による「ことばのいずみ」スピーチコンテスト（始良ライオンズクラブ主催）が行われました。

始良市内の小6・中2・高2年生に「あいさつ」「郷土を大切に作る気持ち」などをテーマに自分の思いや、考えを述べるものです。86名の応募から優秀賞に選ばれた11名がスピーチを行いました。

その中で、小学生の部4名の中から始良小6年の松藤大悟君の「ルールと決断力」が見事最優秀賞に選ばれました。

校区コミュニティとしましても受賞を喜ぶと共に、その発表の一部を掲載して校区民に広くお知らせします。

「ルールと決断力」

始良小学校6年 松藤 大悟

ぼくはまだ小学生ですが、中学、高校と進学して社会人になります。社会にでると、そこには様々なルールがあります。これは今の小学校生活でも同じことなのです。

なぜ、ルールを守るのか…。それは他の人たち、そしてぼく自身も幸せに生きるためだと思います。

しかし、ぼくは、時々ルールを破ってしまうことがあります。たとえば、登校時間が決まりより早かったり、ろう下を走ってはいけないのに走ったり…。

ふり返ってみると、ぼくは様々なルールを破っていたんだなと思います。ろう下を走ってしまうと人とぶつかってけがをしたり、登校時間が決まりより早いと、先生がいらっしやらないのでけがをしても助けを求める事ができなかつたり…。ルールを1つでも破ってしまうと、自分や他の人がいやな気持ちになることがあるのです。それどころか、命が失われる危険もあるのです。

たとえば、一向に歩きスマホをやめない人もいます。それが、原因で交通事故が起きることさえあるのです。だから、ルールは絶対に守らなければいけません。

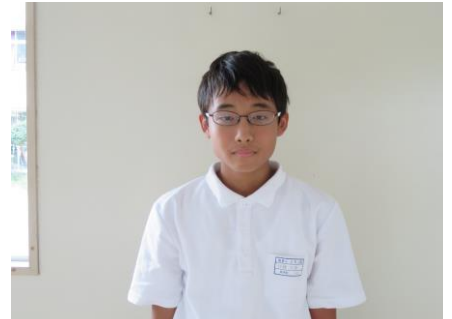
しかし、ただルールを守るだけはいけないと思います。常にルールに沿って行動していても、自分で考えて行動しないといけない時があるからです。自分で考えて行動できないと、社会の役に立つことも難しいかもしれません。自分で考えて行動することが出来れば、社会に出ても困ることが少なくなるはずですよ。

つまり、ルールを守ることと同じように求められていることは、「決断力」なのだと思います。

ぼく自身には決断力があまりないと思います。たとえば、宿題の絵をかく時に、何をかこうかなと30分ぐらい考えたことがあります。

こうふり返ると、ぼくはルールを守ることと決断力、どちらも欠けていたのだなと思います。これからはこの二つの意識を高めて、ルールをしっかり守り、決断力もそなえた社会人を目指していきたいです。そのためにも、今の小学生生活のルールを守って生活していきたいと思います。

（文責：総務部 小倉 章）



（スピーチした松藤大悟君）

始良校区コミュニティ協議会役員会報告

- ◎ 7月8日
 - ① アンケート調査の原案打合せ
 - ② 自治会長会に趣旨説明と配布及び回収の協力を諮ることとする。
- ◎ 9月9日
 - ① アンケート調査の集計結果の周知
どのようにまちづくりプランに活用するか。
 - ② 幟旗等の作成について

- ◎ 10月7日
 - ① 各部の行事実施報告
 - ② アンケート調査結果の自治会長への周知について
 - ③ 「議会報告会」の開催について
- ◎ 11月1日
 - ① まちづくりプランの作成について



健康・安全部だより

健康、安全部では、健康増進のための各種スポーツ大会を実施しましたのでその結果をお知らせ致します。

どの大会も、自治会長、民生委員・児童委員、スポーツ推進員等並びに参加者の協力のもと、素晴らしい大会が出来ました。有難うございました。

1 ドッジボール大会 (小学生)

① 期 日 7月23日(土)・・始良小学校体育館

- ・ 参加人員 10チーム 115名
- ・ 優勝 始良駅南 準優勝 俵原

※ 昨年より、1チーム増えましたが、来年は、出場チームがもっと増えるよう各自治会のご協力をお願いします。

2 9人制ミニバレーボール大会 (一般)

① 期 日 8月27日(土)の予定でしたが、参加チームが、2チームのため残念でしたが中止しました。

- ・ 参加希望された並木東、西宮島チームは、11月20日(日)に行われる、始良市対抗スポーツ大会に出場してもらいました。

3 校区コミュニティグラウンド・ゴルフ大会

① 期 日 10月12日(水)・・思川公園

- ・ 参加人員 29チーム 145名
- ・ 団体優勝 池島A 準優勝 山野C 3位 池島C
- ・ 個人優勝 住吉一成(重富団地) 準優勝 中村龍男(池島A) 3位 田中正博(山野C)
- ・ 特別賞 最高齢者 四元ナル子(楠元団地 95歳)
勝目 一雄(並木東C 91歳)



(ドッジボール試合状況)



(グラウンド・ゴルフの状況)

始良校区の紹介No.3

(文責:健康安全部 中馬睦夫)

[始良小校区の史跡・伝統芸能等]

1. 建昌城跡

九州縦貫自動車道桜島サービスエリアの北側(西餅田の建昌)に立地し周囲約2km、標高約100mの山上にある。面積は約10万㎡で東側の約7万㎡には中世の山城跡(曲輪・空堀など)が良く残り「鹿児島県史跡」に指定されています。一方 西側の約3万㎡は昭和40年代に育雛場が造られ山城跡は壊されましたが、下の層から縄文時代草創期～早期(約13000～9000年前)の遺跡が見つかりました。

建昌城は豊州島津家初代豊後守季久が平山城を攻め落として帖佐郷を領有し豊州島津家の居城として瓜生野城(建昌城の前身)を築いた。「建昌城」と呼ばれるようになったのは、島津義弘の頃に、瓜生野城の要害堅固さが中国の建昌城によく似ていると云われたことから、と云われています。

元和元年(1615年)島津家久は薩摩本城を建昌城に移すように幕府の許可を求めたが移転は実現しなかった。理由は名城ではあるが水が乏しいことが指摘されたとのこと。

現在、城の遺構を生かした観光開発の構想が企画されています。

2. 雲門寺跡(西餅田小字寺下2034番地他)

雲門寺跡は昭和50年代の民間宅地開発により消滅しているが、青葉台団地の南側に小高い丘が有り、その一角に雲門寺跡があったと推測されます。団地公園内には廃物毀積により破損を受けた仁王像が保存されています。雲門寺の創建は不明であるが、仁王像の背面に「総禅寺末寺 雲門寺 右開山心岩大和尚 但、由緒等無御座候」との記述があるが心岩大和尚とは豊州島津家初代豊後守季久の息子であります。島津季久が文明9年(1477年)に瓜生野城で亡くなった時、菩提寺の総禅寺は完成しておらず、亡骸は雲門寺に仮埋葬されたと伝えられ少なくとも文明9年以前には存在していたと推測されます。



3. 帖佐の松並木

・思川の渡し口付近から、旧国道10号線に沿って北東へ約2.6kmの並木口に至る間には、見事な松並木が続いていた。その起源は定かでないが「帖佐郷絵図」に、松並木がはっきり描かれており、並木・並木口という地名も残っている。太平洋戦争中、航空機燃料用の松根油が採取されたり、その後松喰虫の被害も遭ったが昭和40年ごろの国道改良拡幅工事で伐採され姿を消した。

4. 島津季久供養碑

豊州島津家初代豊後守季久が文明9年(1477年)に瓜生野城で亡くなった後、元禄3年(1690年)に島津豊後守久邦が初代季久の供養のために建立したもので、現在は西餅田1027-3(建昌)の個人宅に移されていて、地元では「黒木どんの墓」「豊後どんの墓」と呼ばれています。



(島津季久供養碑)

5. 山の神・田の神

①山の神 神官型 正徳2年(1712年) 西餅田楠元上桜木

(由来)山岳に鎮まり山林を領する神と見做されている。冬には山の神として山中に有り、夏には里に下って田の神になるという神去来説が信じられているが、山仕事に従う樵・炭焼き・木地師・猟師などは山中常在の神としています。

②・田の神 僧侶型 正徳2年(1712年) 西餅田楠元上桜木

・田の神 石碑浮彫 年代風化激しく不明 県高等技術専門学校内

・田の神 神職型 宝暦5年(1755年) 県高等技術専門学校内

(由来)お上から神仏信仰の自由を取り上げられた農民が、地蔵や道祖神のような決まった型を避けて、百様百態の手作りで素朴な石神を創造し、五穀豊穰・子孫繁栄を祈る彼らの唯一の拠りどころにした。田の神と山の神が一体だとする説も古くから伝承されています。旧始良町では楠元の正徳2年(1712年)が最古のものとなっています。



(田の神)

6. 西ノ妻の北斗神碑(西餅田426 安田酒店敷地内)

(由来)慶安2年(1649年)の建立で由来は不明であるが、江戸時代庶民にまで広まった北斗星又は北極星信仰は、近世に入ってから天之御中主神と習合され造化の神として祭られて北辰信仰とも称されています。



(北斗神碑)

7. 伝統芸能

・始良小校区に伝統芸能はないが、「鬼火焚き」や「もぐら打ち」などの行事が残っている自治会があります。

① 鬼火焚きの由来

「鬼火焚き」は源頼光が鬼退治で鬼の腕骨を焼いたと言う故事に因んでのお祭りのことです。昔の人は病気になるったり火事・地震・津波等自分たちに対して悪いことが起こると、鬼が暴れているからだと思いお正月に「今年はいいい年になりますように！」と云いながら山から竹を切ってきて積み上げ下に門松や正月の飾りを置き、その年の年男と年女が火をつけて燃やすと、鬼は火の粉と一緒に空高く飛んで行くので人々は「鬼が空の向こうに飛んで行った！いい年になる」と喜び又その火で身体を暖めると1年間健康で過ごせる、と所謂家内安全と無病息災祈願のお祭りなのです。

② モグラ打ちの由来

本来は田畑を荒らすモグラの害を防ぐために、竹に巻いた藁等で家の庭先や田畑の地面を叩いて回る九州地方の伝統行事で、現在は五穀豊穰や家内安全祈願の儀式となったものであります。

以上 始良校区について第1回地理的環境、第2回自然環境、第3回史跡・伝統芸能について紹介をしましたが、筆者の貧しい知識を歴史民族資料館の職員の方、重富ふれあい館なぎさミュージアムの職員の方、始良校区コミュニティー協議会総務部の仲間のご協力を得て一区切りつけることができました。ご意見等をお待ちしております。
(文責 :総務部 松田幸一)

楠元 鬼火焚き・鬼山づくり

平成29年1月7日(土)は楠元自治会の鬼火焚きがあります、午後6時点火です。

豚汁・ぜんざい・振る舞い酒を準備して皆様のご来場をお待ちしております。

鬼火焚きのための鬼山づくりを

12月18日(日)に行います、有志の方々のご協力をお願いします。

ご協力くださる方は、当日午前9時に現地田圃にお集まりください。